”世知原っ子に「夢」と「笑顔」と「達成感」を”

夢をもち，心豊かで，たくましく生きる子どもを育成する

開知

○笑顔いっぱい
○学びいっぱい
○元気いっぱい

世知原小だより第３２号　平成３０年１１月７日　文責　久保 克則

深まっていく秋の中で……

１１月を迎えて，１週間が過ぎようとしています。朝夕の冷え込みも少しずつ厳しくなっているように感じます。１１月は別名**「霜月」**とも言われています。その名のとおり，「霜が降りる季節」という意味から来ているのですが，これは**旧暦でのことなので，今の暦に当てはめると，１１月下旬から１月上旬のことを指します。**この**「しもつき」という呼び名には，**他の説もあるようです。例えば，無事に作物を収穫できたことを感謝し，食すことから**「食物月（おしものつき）」**と呼ばれたものが変化したという説。また，徐々に日が短くなり太陽の光が弱くなるので**「ものがしぼむ月」**と呼ばれた者が変化したという説などがあります。また，**１１月（霜月）の別名に，「仲冬（冬の真ん中に当たることから）」「神帰月（出雲大社に行った神様が戻ってくることから）」「雪待ち月（冬ごもりをする前，雪を待つということから）」などがあります。**

いずれにしても，霜が降りる時期がやってくるのは，しばらく間があるとしても，確実に１日１日秋が深まっていっているのを実感する今日この頃です。

そんな中，**２日（金）に１，２年生が，生活科の学習「たのしもう　あき　」で，「世知原少年自然の家」まで，校外学習に行きました。**この学習では，**「①春や夏と比べながら，秋の校庭や公園，野原などの遊び場の様子の変かを感じ取ることができる。②見つけた秋の自然物に興味・関心をもつ」ことをねらいとしています。**

学校を出発するときには，まだ少し肌寒かったのですが，１時間弱歩いて「少年自然の家」に到着する頃には，体がぽかぽかに温まっていました。**途中でも，すすきやからすうりといった植物を見つけ，季節が秋に移り変わっている様子を感じ取っていました。**

近くのテーブルに荷物を置いたら，まずは担任の先生から安全に過ごすための約束をしっかりと確認しました。そして，いよいよ「冒険の森」に入っていっての秋探しのスタートです。始めは，なかなか見つかりませんでしたが，少し奥の方までいって，**重なっている落ち葉を取り除くと，その下からどんぐりが顔を出しました。大きいのもありました。帽子をかぶったままのもの，いくつも枝にくっついているもの，どんどん出てきました。気がついたら，みんな何十個ものどんぐりなどを集めることができました。**そのご褒美というわけではありませんが，アスレチックに挑戦して大いに楽しみました。

その後は待ちに待った**お弁当の時間。**いっぱい活動しただけに，お腹も空いていて，**みんな笑顔で食べていました。朝早くからのお弁当づくり，ありがとうございました。**

もうすぐ「少年自然の家」に到着

どんぐりはどこかな？出ておいで

いつも以上においしかったです！